
 関 係 法 令

省 令		廃止した件（同151, 152）	10・18
○学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部40）	10・24	○大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を変更した件（同153～155）	10・18
○盲学校及び聾学校の高等部の学科を定める省令の一部を改正する省令（同41）	10・24	○盲学校、聾学校及び養護学校幼稚部教育要領を定める件（同157）	10・24
○大学院設置基準の一部を改正する省令（同42）	10・26	○盲学校、聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領の全部を改正する件（同158）	10・24
○学位規則の一部を改正する省令（同43）	10・26	○盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領の全部を改正する件（同159）	10・24
○学校教育法施行規則の一部を改正する省令（同44）	10・26	○大学院及び大学の専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定の一部を改正する件（同160）	10・26
告 示		○医学又は歯学の大学院研究科又は専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定の一部を改正する件（同161）	10・26
○外国において学校教育における12年の課程を修了した者に準ずる者を指定する件の一部を改正する件（文部149）	10・18		
○大学入学に関し専修学校高等課程について文部大臣が個別に指定した件（同150）	10・18		
○大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその課程を			

 諸 会 議

平成元年度第5回トリウム科学センター運営委員会
(持ち回り) (10月12日)

(審議事項)

- (1) 平成元年度放射線業務従事者の登録について

平成元年度第7回入学試験管理委員会・第7回入学者
選抜方法研究委員会の合同委員会 (10月17日)

(審議事項)

- (1) 入学者選抜方法の改善に伴う昭和62年度以降の調査研究事項について
(2) 平成2年度富山大学学生募集要項(案)について
(3) 平成3年度入学試験について

平成元年度第9回評議会 (10月20日)

(審議事項)

- (1) 平成2年度富山大学学生募集要項について
(2) 平成元年9月卒業者の認定について
(3) 転学部について
(4) 平成3年度入学試験の実施方式・日程等について

平成元年度第2回黒田講堂管理運営検討委員会 (10月27日)

(議 題)

- (1) 黒田講堂管理運営上の諸問題について
(2) その他

平成元年度第4回学寮補導委員会（10月30日）
（審議事項）

(2) 受験生宿泊について
(3) その他

(1) 風呂用温水ボイラー燃料費の負担割合について

学内トピックス

▼理学部赤羽教授に紫綬褒章



「望遠鏡作りは、チームの力」と謙そんし、電波天文学の分野が評価されて嬉しいと語る赤羽教授

平成元年秋の褒章で、本学理学部赤羽賢司教授（電波物理学）が、学術・文化に功績のあった人に贈られる紫綬褒章を受章された。

同教授は、一貫して電波天文学の研究に心血を注がれ、特に昭和57年の東京大学東京天文台野辺山宇宙電

波観測所長時代に、世界に誇る大型電波望遠鏡を完成させるとともに、今日の電波天文学推進の原動力となり、その後継者を育成したことが、このたびの受章となった。

同教授の略歴は次のとおりです。

- 昭和26年 3月 東京大学第2工学部物理学科卒
- 26年 4月 東京大学助手
- 36年 7月 " 東京天文台助教授
- 44年 4月 " 東京天文台教授
- 57年 4月 " 野辺山宇宙電波観測所長
- 62年 4月 富山大学理学部教授
- 理学博士 東京大学名誉教授

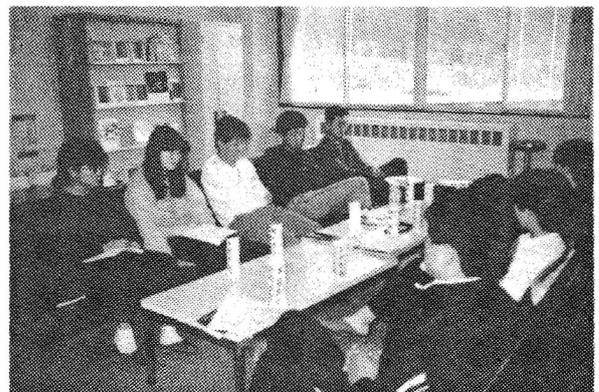
平成元年度体育系サークルリーダー研催会の開催▼



講義に聴き入るリーダーら

去る10月3日(火)～5日(木)の日程で、本学体育会役員及び同所属サークルのリーダー60名余りが一同に会して本年度体育系サークルリーダー研修会が開催された。

上新川郡大山町の山野スポーツセンターを会場に、本学課外活動のあり方や問題点について話し合い、体育系サークルの今後の発展と資質の向上を図り、併せてサークル相互の理解と親睦を図ることを目的に毎年開催されているものである。



熱心にグループ討議する参加学生

学 事

平成元年度民間等との共同研究の受入れ

(平成元年10月1日現在)

研究区分	企業名	研究題目	受入期間	受入人数	大学側研究代表者 所属・職・氏名	歳 入		
						直接経費	受託研究員費	計
A	北陸電気工業(株)	半導体磁気センサの研究	元.10.1 } 2.3.31	1	工学部教授 龍山 智栄	1,029,800	412,000	1,441,800
A	北陸電気工業(株)	高誘電率セラミック誘電体を用いたE L表示素子の研究	元.10.1 } 2.3.31	1	工学部教授 宮下 和雄	1,030,000	412,000	1,442,000
A	(株)富山村田製作所	圧電セラミックスと金属の界面特性	元.10.1 } 2.3.31	1	工学部教授 龍山 智栄	1,030,000	412,000	1,442,000
A	日華化学(株)	切削・研削における潤滑成分の効果	元.10.1 } 2.3.31	1	工学部教授 高辻 雄三	617,400	412,000	1,029,400
A	吉田工業(株) エルコー(株)	ドリリングセンターの適応制御に関する研究	元.10.1 } 2.3.31	2	工学部教授 高辻 雄三	1,029,600	824,000	1,853,600
A	北陸電力(株)	酸化物高温超伝導体の電流・熱流の磁場効果	元.10.1 } 2.3.31	1	教養部教授 森 克徳	1,647,800	412,000	2,059,800
B	白馬プラスチック工業(株)	各種合成樹脂膜による気体の透過機構に関する研究	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 笹倉 寿介	1,648,000	412,000	2,060,000
B	武内プレス工業(株)	アルミ容器の塗膜性能分析とその評価	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 宇佐美四郎	824,000	412,000	1,236,000
B	サンエツ金属(株)	酸化物超伝導体の線材化に関する研究	元.7.1 } 2.3.31	1	地域共同研究センター 助教授 池野 進	1,030,000	412,000	1,442,000
B	立山科学工業(株)	セラミックス薄膜(金属コーティング用)の研究	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 宮下 和雄	515,000	412,000	927,000
B	(株)イチカワ	インバータを応用したアクティブフィルタによる波形改善の研究	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 藤田 宏	721,000	412,000	1,133,000
B	立山マシン(株)	F Aシステムの対話型シーケンサーのプログラム開発	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 米田 政明	2,060,000	412,000	2,472,000
B	アイシン軽金属(株)	機能性材料に関する研究	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 時澤 貢	618,000	412,000	1,030,000
B	(株)アイテック	液晶表示パネル用面光源の開発	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 女川 博義	2,678,000	412,000	3,090,000
B	電気化学工業(株)	アルミニウム基複合材料の開発	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 多々 静夫	618,000	412,000	1,030,000
B	(株)イチカワ	コロナ測定器の開発研究	元.11.1 } 2.3.31	1	工学部教授 中谷 秀夫	773,000	412,000	1,185,000

研究区分	企業名	研究題目	受入期間	受入人数	大学側研究代表者 所属・職・氏名	歳 入		
						直接経費	受託研究員費	計
B	㈱大阪真空機器製作所	磁気浮上型分子ポンプのトリチウムによる汚染とその対策	元.11.1 } 2.3.31	1	トリチウム科学センター 教授 渡辺国昭	50,000	412,000	462,000
C	立山アルミニウム工業㈱	押出材の寸法精度及び表面品質の向上を目的とした押出用ダイスの開発	元.7.1 } 2.3.31	1	工学部教授 時澤 貢	—	412,000	412,000
C	太平洋製鋼(株)	極低温鍛鋼管の開発	元.7.1 } 2.3.31	1	理学部教授 佐藤 清雄	—	412,000	412,000
計 19件				20		17,919,600	8,240,000	26,159,600

平成2年度富山大学学生募集要項の発表

本学は、平成2年度富山大学学生募集要項を11月13日(月)に発表しました。その概要は次のとおりです。

1. 募 集 人 員

学部	学科・課程(専攻教科)・コース	募集人員	学部	学科・課程(専攻教科)・コース	募集人員		
人文学部	人文学科	95	理学部	数学科	43		
	語学文学科	95		物理学科	47		
計		(注1) 190		化学科	43		
教育学部	小学校教員養成課程	100		生物学科	35		
	中学校教員養成課程	50		地球科学科	32		
	[国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 技術, 英語]			計	(注3) 200		
	養護学校教員養成課程	20	工学部	工業化学科	50		
	幼稚園教員養成課程	30		金属工学科	43		
	情報教育課程	40		機械工学科	56		
[教情報コース, 情報コース]	生産機械工学科			45			
計	240	化学工学科		46			
経済学部	昼間主 コース	経済学科	144	(注5)	電子情報工学科	132	
		経営学科	124		計	(注4) 372	
		経営法学科	102		総 計		1,432
	夜間主 コース	経済学科	20				
		経営学科	20				
		経営法学科	20				
計		(注2) 430					

- (注) 1 人文学部の募集人員(190)には、帰国子女・社会人特別選抜の募集人員(若干名)を含む。
- 2 経済学部の募集人員(430)には、推薦入学の募集人員(昼間主コース30名以内、夜間主コース20名程度)及び帰国子女・社会人特別選抜の募集人員(帰国子女特別選抜:昼間主コース若干名, 社会人特別選抜:夜間主コース20名程度)を含む。
- なお、経済学部の「昼間主コース」とは、主として昼間の授業を履修するコースであり、「夜間主コース」とは、主として夜間の授業を履修するコースであるが、修業年限はともに4年である。
- 3 理学部の募集人員(200)には、物理学部の定員一部留保第2次募集人員(12)、帰国子女特別選抜の募集人員(全学科とも若干名)及び生物学科における社会人特別選抜の募集人員(若干名)を含む。
- 4 工学部の募集人員(372)には、推薦入学の募集人員(電子情報工学科6名以内、その他の学科は各2名以内)を含む。

5 工学部の学科改組計画について

工学部では、平成2年度に現在の工業化学科、金属工学科、機械工学科、生産機械工学科及び化学工学科を「機械システム工学科、物質工学科及び化学生物工学科」に改組することを計画している。また、この改組に伴って、募集人員も変更(30名の増員)することを計画している。

この計画は、関係法令の制定、平成2年度予算の成立により確定するものである。現在未定である。詳細については、平成2年度政府予算案の決定後(平成2年1月頃)に、「追加募集要項」で発表する予定であるので、工学部の該当学科入学志願者は、新たに「追加募集要項」を請求し、これを参照のうえ出願すること。

2. 出 願 期 間

平成2年1月22日(月)から1月31日(休)まで。(期間内必着とする。)

受付は午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日の午後及び日曜日は受け付けない。

なお、郵送の場合、1月29日(月)以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、出願期間後に到着しても受理する。

3. 検 査 期 日

平成2年3月4日(日)

(教育学部小学校・養護学校・幼稚園教員養成課程は、3月4日(日)・5日(月)の両日行う。)

4. 出 願 要 領

ア 人文学部の出願について

人文学部志願者は、学科を指定し、必ず第2志望まで付して出願すること。

イ 教育学部の出願について

教育学部志願者は、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程の専攻教科、養護学校教員養成課程、幼稚園教員養成課程又は情報教育課程を指定して出願すること。

ただし、第2志望を付して出願することができるが一部制限がある。

(ア) 第2志望とすることができる課程、専攻教科は次のとおりである。

第1志望の課程(専攻)	第2志望とすることができる課程(専攻)
小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	小学校教員養成課程、養護学校教員養成課程及び幼稚園教員養成課程相互間の他に 国語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、家庭、英語) 数学で受験する者は、中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術) 英語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、数学、理科、家庭、技術、英語)
中学校教員養成課程 (国語、社会、英語)	国語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、英語)相互間、中学校教員養成課程(家庭)及び情報教育課程 英語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、英語)相互間の他に 中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術)及び情報教育課程

第1志望の課程(専攻)	第2志望とすることができる課程(専攻)
中学校教員養成課程 (数学, 理科, 技術)	数学で受験する者は, 中学校教員養成課程(数学, 理科, 技術)相互間, 中学校教員養成課程(家庭)及び情報教育課程 英語で受験する者は, 中学校教員養成課程(数学, 理科, 技術)相互間の他に 中学校教員養成課程(国語, 社会, 家庭, 英語)及び情報教育課程
中学校教員養成課程 (家庭)	国語で受験する者は, 中学校教員養成課程(国語, 社会, 英語)及び情報教育課程 数学で受験する者は, 中学校教員養成課程(数学, 理科, 技術)及び情報教育課程 英語で受験する者は, 中学校教員養成課程(国語, 社会, 数学, 理科, 技術, 英語)及び情報教育課程
情報教育課程	国語で受験する者は, 中学校教員養成課程(国語, 社会, 家庭, 英語) 数学で受験する者は, 中学校教員養成課程(数学, 理科, 家庭, 技術) 英語で受験する者は, 中学校教員養成課程(国語, 社会, 数学, 理科, 家庭, 技術, 英語)

(イ) 中学校教員養成課程(音楽, 美術, 保健体育)は, 第2志望を付すことはできない。

ウ 経済学部の出願について

経済学部志願者は, 昼・夜間主コース別に学科を指定し, **必ず第3志望まで**付して出願すること。

(注) **異なるコースの学科を第2, 第3志望とすることはできない。**

エ 理学部の出願について

理学部志願者は, 学科を指定して出願すること。**第2志望は認めない。**

オ 工学部の出願について

工学部志願者は, 学科を指定して出願すること。**第2志望は認めない。**

5. 入学者の選抜方法

入学者の選抜は, 大学入試センター試験, 本学の個別学力検査等, 調査書及び健康診断を総合して行う。

ただし, 経済学部「夜間主コース」入学者の一般選抜は, 大学入試センター試験, 調査書及び健康診断を総合して行う。

(1) 2段階選抜について

ア 2段階選抜は, 原則として行わない方針である。

しかし, 志願者数が定員の8倍を超えた学部(経済学部「夜間主コース」を除く。)においては, 大学入試センター試験の成績に基づき行うことがある。

イ 2段階選抜を実施する場合は, 次の要領で行う。

(ア) 第1段階選抜の方法

大学入試センター試験の成績に基づき選抜する。

(イ) 第1段階選抜結果の通知

平成2年2月10日(土)正午, 本学学生部前に「実施する学部名」を掲示する。

第1段階選抜の結果については, 合格者には「富山大学受験票」及び検査場案内等を, また不合格者にはその通知書及び検定料の返還申出書を同日付けで送付する。

ウ 2段階選抜を実施しない場合は, **平成2年2月10日(土)正午**, 本学学生部前に「実施しない」ことを掲示するとともに, 同日付けで志願者全員に「富山大学受験票」及び検査場案内等を送付する。

(2) 大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法

本学における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法は, 次のとおりである。

入学志願者に解答させる教科科目等 利用する学部・学科等		利用する 選抜の対象	入学志願者に解答 させる教科・科目名
人文学部 教育学部 経済学部		一般選抜の全部 について利用	5教科6科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 地学, 化, 理I, 生から1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕
理 学 部	数学科 生物学科 地球科学科		4教科5科目 国 数〔「数I」と「数II」〕 理〔物, 地学, 化, 生から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕
	物理学科 化学科		5教科6科目 国 社〔倫, 日, 世, 地理, 現社から1〕(注1) 数〔「数I」と「数II」〕 理〔物, 地学, 化, 生から1〕 外〔英, 独, 仏から1〕
	物理学科		定員一部留保第2次 募集について利用 (入学定員47人中の12人)
工学部		一般選抜の全部 について利用	4教科5科目 国 数〔「数I」と「数II, 工, 簿から1」〕(注2) 理〔物, 地学, 化, 理I, 生から1〕(注3) 外〔英, 独, 仏から1〕

- (注) 1. 「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者に限る。
 2. 「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を選択解答できる者は、高等学校において「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。
 3. 「理科I」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者に限る。
 4. 「理科」について、複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。
 5. 指定された教科・科目を受験していない場合は、「失格」とする。

(3) 個別学力検査等

本学が実施する個別学力検査の検査教科・科目等は次のとおりとし、高等学校卒業の学力程度を標準として出題する。

学部	学科・課程(専攻教科)	検査教科・科目	
		教科等	科目
人文学部	人文学科 語学文学科	国語 外国語	国語I・国語II 英語II・英語IIB, ドイツ語, 朝鮮語, 中国語, ロシア語のうちから英語は2科目, その他は1科目選択

教育学部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程		国語 数学 外国語 芸術 保健体育	国語Ⅰ・国語Ⅱ 代数・幾何，基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 音楽実技 美術実技 体育実技	1教科選択 1科目選択
	中学校教員養成課程	(国語，社会，英語)	国語 外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 英語Ⅱ・英語ⅡB	1教科選択
		(数学，理科，技術)	数学 外国語	代数・幾何，基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB	1教科選択
		(音楽)	芸術	音楽実技	
		(美術)	芸術	美術実技	
		(保健体育)	保健体育	体育実技	
	中学校教員養成課程 (家庭) 情報教育課程		国語 数学 外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 代数・幾何，基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB	1教科選択
経済学部 (注1)	昼間コース 主	経済学科 経営学科 経営法学科	数学 外国語	代数・幾何，基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 2科目 又はドイツ語 1科目選択	1教科選択
理学部	数学科(注2)		数学	代数・幾何，基礎解析，微分・積分，確率・統計(統計は除く。)	
	物理学科		数学科	代数・幾何，基礎解析 物理	
	化学科		数学科	代数・幾何，基礎解析 化学	
	生物学科		理科 その他	物理，化学，生物，地学のうちから1科目選択 小論文〔自然科学を学ぶのに必要な論理的な思考能力並びに表現力などを問う。(高度な知識そのものを問うものではない。)]	
	地球科学科		数学 外国語 理科	代数・幾何，基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 物理，化学，生物，地学のうちから1科目選択	1教科選択
工学部	機械工学科 生産機械工学科 電子情報工学科		数学科	代数・幾何，基礎解析 物理	
	工業化学科		数学科	代数・幾何，基礎解析 化学	
	金属工学科 化学工学科		数学科 理科	代数・幾何，基礎解析 物理，化学のうちから1科目選択	

(注) 1. 経済学部「夜間主コース」は，個別学力検査は課さない。

2. 理学部数学科は，「数学」を2時限にわたって課す。第1限〔代数・幾何，基礎解析〕10：00～11：30。

第2限〔代数・幾何，基礎解析，微分・積分，確率・統計（統計は除く。）〕13：00～14：30。

(4) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の配点

教科等 学部(学科・課程)		区 分	国語	社会	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	小計	合計
人 文 学 部		センター試験 個別学力検査	200 200	100	200	100	200 200			800 400	1,200
教 育 学 部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	センター試験 個別学力検査	200 (200)	100	200 (200)	100	200 (200)	200		800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (国語，社会，英語 専攻)	センター試験 個別学力検査	200 (400)	100	200	100	200 (400)			800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (数学，理科，技術 専攻)	センター試験 個別学力検査	200	100	200 (400)	100	200 (400)			800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (音楽，美術， 保健体育専攻)	センター試験 個別学力検査	200	100	200	100	200	400		800 400	1,200
	中学校教員養成課程(家庭専攻) 情報教育課程	センター試験 個別学力検査	200 (400)	100	200 (400)	100	200 (400)			800 400	1,200
経 済 学 部	経済学科，経営学科， 経営法学科 (昼間主コース)	センター試験 個別学力検査	100	50	100 (300)	50	100 (300)			400 300	700
	経済学科，経営学科， 経営法学科 (夜間主コース)	センター試験	200	100	200	100	200			800	800
理 学 部	数 学 科	センター試験 個別学力検査	100		100 500	100	200			500 500	1,000
	物 理 学 科	センター試験 個別学力検査	200	100	200 200	100 400	200			800 600	1,400
	化 学 科	センター試験 個別学力検査	200	100	200 200	100 200	200			800 400	1,200
	生 物 学 科	センター試験 個別学力検査	200		200	100 400	200		400	700 800	1,500
	地 球 学 科	センター試験 個別学力検査	100		200 (200)	100 200	200 (200)			600 400	1,000
工 学 部		センター試験 個別学力検査	100		100 200	100 200	100			400 400	800

(注) 1. () 内は選択教科を示す。

2. 理学部数学科の個別学力検査「数学」の配点は，「代数・幾何，基礎解析」200点と「代数・幾何，基礎解析，微分・積分，確率・統計（統計は除く。）」300点とで合計500点である。

6. 検 査 場

学力検査及び健康診断(再診断)は，各学部ごとに次の検査場(予定)で行う。ただし，志願者数によっては検査場の変更(富山市内公立高等学校等)もあり得るが，検査場案内は，受験票等送付(2月10日)の際に通知する。

人文学部検査場

人文学部及び教養部(富山市五福)……………(学力検査 健康診断)

教育学部検査場

教育学部(富山市五福)……………(学力検査 健康診断)
(実技検査)

経済学部検査場

経済学部及び教養部(富山市五福)……………(学力検査 健康診断)

理学部検査場

理学部(富山市五福)……………(学力検査 健康診断)

工学部検査場

工学部(富山市五福)……………(学力検査 健康診断)

7. 合格者発表

合格者は、平成2年3月20日(火)午後1時本学(富山市五福)に掲示し、かつ、本人に通知する。

8. 推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜について

本学では次のとおり推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜を行うが、細目については別に募集要項があるので、250円切手(速達の場合460円)をはった返信用封筒〔角形3号(21.6cm×27.7cm)〕を同封のうえ、「募集要項請求」(推薦入学、帰国子女特別選抜、社会人特別選抜の別を明記すること。)と朱書して請求すること。

(1) 推薦入学実施学部等

経済学部(「昼間主コース」,「夜間主コース」),工学部

(2) 帰国子女特別選抜実施学部等

人文学部,経済学部「昼間主コース」,理学部

(3) 社会人特別選抜実施学部等

人文学部,経済学部「夜間主コース」,理学部(生物学科)

(4) 出願期間

平成元年11月11日(土)~11月17日(金)午後5時必着

9. 理学部定員一部留保第2次募集について

大学入試センター試験において、本学が指定した全教科・科目を受験した者で、かつ、3月23日の時点でいずれの国公立大学にも合格していない者(いずれの国公立大学にも出願していない者を含む。)又は国公立大学に合格したが、3月27日までに当該大学に入学手続を行わない者に対し、本学理学部物理学科では3月23日(金)から定員一部留保第2次募集を行う。この細目については、別に募集要項があるので、250円切手(速達の場合460円)をはった返信用封筒〔角形3号(21.6cm×27.7cm)〕を同封のうえ、「理学部第2次募集要項請求」と朱書して請求すること。

出願期間 平成2年3月23日(金)~3月27日(火)午後5時必着

10. 情報の提供(テレホンサービス)

本学では、個別学力検査等の出願状況及び欠員補充の方法等について、次のとおりテレホンサービスを行う。

(1) 工学部の改組計画 平成2年1月10日(水)~平成2年1月22日(月)

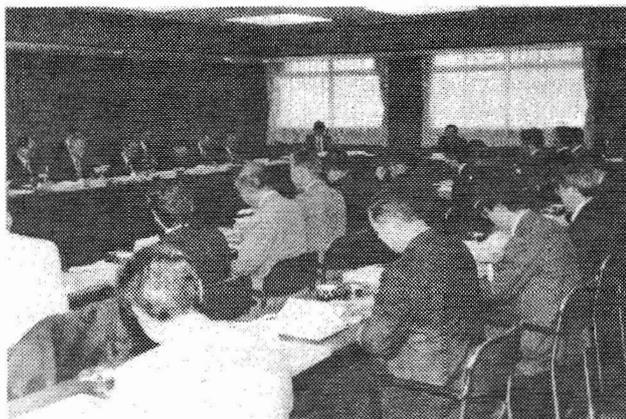
(2) 出願状況 平成2年1月23日(火)~平成2年2月1日(木)

(3) 2段階選抜実施の有無 平成2年2月10日(土)午後0時30分~平成2年2月13日(火)

(4) 欠員補充方法 平成2年3月21日(水)~平成2年3月27日(火)

(5) 欠員補充状況 平成2年3月28日(木)~平成2年3月31日(土)

電話番号 0764(33)2999(通話料は有料)



(協議事項)

1. 共同研究センター事業の進展に伴う専任事務官の配置について
2. 共同研究経費の弾力的使用について
3. 共同研究受入れ上の問題点とその改善について
4. 客員教授の運用について
5. 共同研究センターと大学院との連携について
6. 共同研究促進の方策について

学術講演会の開催（理学部）

カナダ国立研究所化学部の K.W. マイケル、スー博士が本学理学部分析化学研究室を訪問されたのを機会に、去る10月24日(火)、同博士による

「クロマトグラフィーによる海洋試料中の微量元素の状態別分析」

と題する講演会が理学部2号館第6講義室において開催された。

講演は海水、海洋堆積物、魚介類などの海洋試料中に含まれる微量有害金属の定量に関するもので、約60名の教官・学生の方々が出席された。

講演の中で、いろいろな金属成分をクロマトグラフィーで分離した後、イオンスプレー・質量分析法を用いて分析するという新しい高感度分析法が紹介された。同博士は、この方法を用いて、いろいろな海洋試料中の超微量のクロムや有機スズ化合物を状態別に定量しているが、綿密で精力的な研究に出席者一同大きな感銘を受けた。

有機スズ化合物による魚介類の汚染問題が、最近、新聞紙上でも大きく取り上げられており、非常に有意義な講演会であった。

国際交流事業基金招へい事業(B) による招へい研究者の来学

富山大学国際交流事業基金に基づいて招へいた、中国の著名な歴史学者、林剣鳴・西北大学教授の座談会と学術講演会が10月30日(月)と31日(火)の両日開催された。

座談会のテーマは「近年来中国出土文物と秦漢史の研究」、この分野に関心をもつ学内外の関係者15名ほどが出席し、先生の報告と、それに対する熱心な質疑応答がなされた。

講演会は31日、教養部1番教室で、「中国古代史上の諸問題——秦始皇帝の評価問題を中心に——」の演題で開かれた。先生の明快な論証によって明らかにされた秦始皇帝をめぐる斬新な解釈は、大教室を埋めた聴衆に多大な感銘を与えたことと思われます。

なお、林教授は、1935年生まれ。57年、西安の西北大学歴史系を卒業、そのまま大学に残り、助手、講師、助教授を経て、86年に教授。現在、中国秦漢史学会の



講演する林教授と通訳の教養部気賀澤教授

会長、中国政法大学教授、陝西省文化部門の責任者などを兼務。専攻は中国古代史（秦漢史）で、『秦史稿』『秦漢社会文明』など著書、論文多数。89年9月から、早稲田大学に招へいされ、日本に滞在中。

学内レクリエーション〈釣大会〉

本学レクリエーション委員会倶楽部会釣班主催による平成元年度学内釣大会が、去る10月7日(土)午後2時から富山新港東防波堤において実施された。

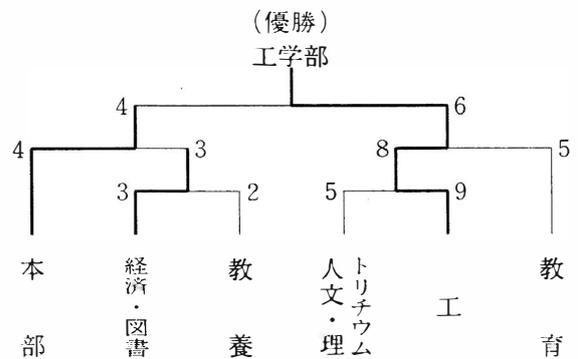
大会は、15名の参加者により競われ、釣り上げた魚(シロギス)2匹の合計長により入賞が決定された。成績は次のとおりでした。

入賞者	
一位	田中 祥男 (施設課)
二位	保正 邦久 (学生課)
三位	森田 憲治 (経理部)

〈野球大会〉

また、同委員会体育部会野球班主催による平成元年度部局対抗野球大会が本学グラウンドで実施された。9・10月の昼休みを利用して熱戦が繰り広げられ、成績は次のとおりでした。

優 勝 工学部チーム
次 勝 本 部チーム



〈バドミントン大会〉

また、同委員会体育部会バドミントン班主催による平成元年度学内バドミントン大会が、去る10月14日(土)本学体育館で実施された。

成績は次のとおりでした。

優 勝	工学部チーム
次 勝	教養部チーム



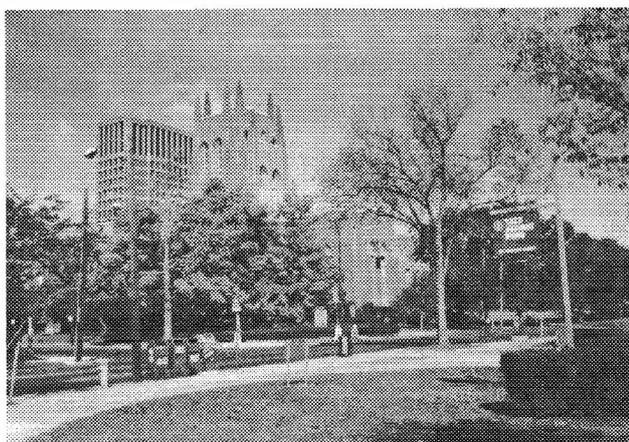
《寄 稿》

フランシスコ・モンロスとの出逢い

教養部教授 鈴木邦雄

昨年10月から今年4月末迄、文部省の在外研究員として米国ニューヘヴン市にあるイエール大学ピーボディ博物館で7ヶ月間研究する機会を得た。恐竜化石のコレクションと展示で世界的に著名な博物館である。古脊椎動物学の大家故G・G・シンプソン博士も一時期ここにおられ、私が昔翻訳したことのある『進化の意味』もその頃イエール大学から出版されている。

滞在中は、公私ともに一切の世話をしてくれた同博物館のD・ファース博士と各地の大学や博物館を訪ねて多くの研究者に逢うとともに、12月にはケンタッキー州ルイヴィルで行われた全米昆虫学会年次大会にも出席した。5月にオタワの種生物学研究所に移り1ヶ月滞在、その後2ヶ月かけてヨーロッパ6ヶ国に約15人の研究者を訪ね、意見交換をすることができた。



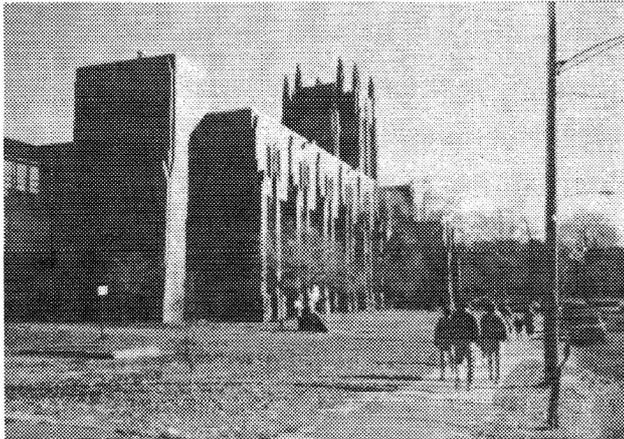
筆者が7ヶ月間滞在したイエール大学ピーボディ博物館（手前）と生物学科の諸施設のあるクライン生物学タワー（向う側）

ファース博士と私は、ハムシ科という甲虫類を研究材料に系統進化の問題を研究している。ハムシ科は、これまでに世界各地から35,000種以上が知られる大きな群で、その形態上の多様さには目を瞠るものがある。生活様式も変化に富み、比較を主要な研究方法とする系統進化学の研究材料として好適である。私たちは、ハムシ科中もっとも多様で種類数も多いヒゲナガハムシ亜科とトビハムシ亜科という2つの大きな群を選び、両者の系統関係を比較形態学の立場から検討した。

私は、ファース博士との共同研究の傍ら、この科の原始的とされているいくつかの亜科の系統関係を後翅

翅脈相や雌雄の内部生殖器官系の比較形態に基づいて考察した。特に、従来その系統関係について不明の点の多かった中南米のみから知られている2亜科（私はムカシホソハムシ亜科及びヒゲナガサルハムシ亜科の和名を与えたいと考えている）についてぜひこの機会に調べたいと考えていた。それらは、日本の研究機関にはほとんど標本が所蔵されていない。ヒゲナガサルハムシ亜科は、前世紀中葉にフランスのJ-T・ラコルデルが今日知られている種の半数近くを記載して以来、数人の研究者によって少数の種が報告されているだけであり、私の知る限り現在専門研究者はほとんどいないのが実情である。北米の研究機関にはピーボディ博物館を含めどこでも多数の標本を調べることができた。私の予備的な研究の結果では、この群は、従来考えられてきたほどには原始的な群ではなく、むしろ中南米で特異な分化を遂げた群であると思われた。ムカシホソハムシ亜科の方は、これまでに僅か20種ほどが知られているに過ぎず、採集された個体数も多くない。幸い、ワシントンの国立自然史博物館（スミソニアン）、ボストンのハーヴァード大学比較動物学博物館（MCZ）、ニューヨークの米国自然史博物館、コロシバスのオハイオ州立大学などでタイプ標本を含む多数の所蔵標本を調べ、借用することができた。その後、オタワの種生物学研究所やロンドンの大英自然史博物館、パリの自然史博物館でも同様の機会に恵まれた。大英自然史博物館で1種、パリ自然史博物館で4種の新種と思われる標本を見だし得たのは予定外の収穫であった。ムカシホソハムシ亜科に関する研究は、今世紀初めに英国のM・ジャコビーが今日知られる大半の種を命名記載後、アルゼンチンのF・モンロスが1956年に総説的論文を発表、1976年にソヴィエトのL・N・メドヴェージェフが新たに数種を命名記載しているのみで、詳しいことは判っていない。このムカシホソハムシ亜科に属する標本については、だいたい以前に当時香川大学におられた中條道夫博士からいただいたモンロスの採集・同定した1個体を調べたことがあるのみだった。中條博士は、生前のモンロスと親交のあった唯一の日本人研究者ではないかと思う。スミソニア

ンは、モンロスが晩年精力的に研究した場所であり、私は彼の記載した中南米の多くのハムシ類のタイプ標本を目のあたりにし、数日間彼の論文を読みながらそれらを直接調べることができた。MCZにも彼の研究した標本の一部が収蔵されていたが、中でも南米コロンビアから記載された大形の美しい種は、論文の記載文やペンの挿図から想像していたものとはずいぶん異なるもので、しばらくは息の止まる思いであった。そ

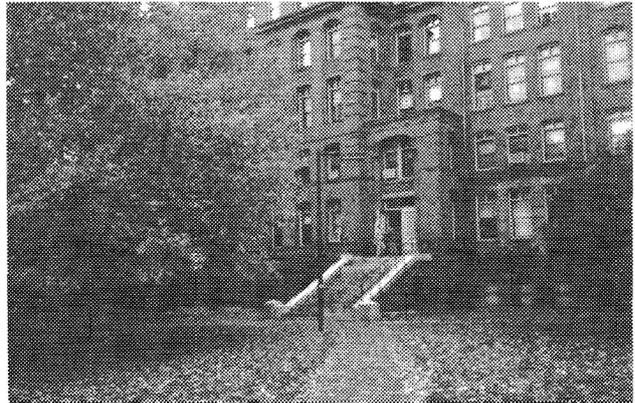


ピーポディ博物館

の種は、MCZにはタイプ標本が1個体収蔵されているだけで、写真に撮って満足する他はなかった。しかし、幸運にもパリの自然史博物館で、MCZの標本とまったく同じ時に同じ場所で採集された標本を3個体見だし、同博物館のN・ベルティ博士の好意で借用し、解剖する許可もいただいた。さらに7月末にイタリアのヴェロナ市自然史博物館を訪ねた際、そのM・ダッコルディ博士が同じシリーズの標本を2個体個人で所有しておられ、1個体を特に譲って下さった。私は、因縁の浅からぬこの虫との出会いをモンロスの引き合わせではないかとの感慨を懐いた。私のこれまでの研究結果では、このムカシホソハムシ亜科は、確かに多くの点でハムシ科の他の群と比較して原始的と思われる特徴を持っているが、いずれの群とも直接的な系統関係を示す証拠は見当らない。

フランシスコ・モンロスは、1958年に36才で死んだアルゼンチンの甲虫学者である。彼は、膨大な論文を残しており、現在存命であったとしてもまだ67才である。中南米はハムシ類が著しい分化を遂げた地域で、現在でも膨大な未記載種が存在している。彼の記載した種は相当な数にのぼり、スミソニアンには、彼が記載した種の完模式標本(命名の基礎となる標本)だけで、大形の標本箱に何箱も収蔵されていた。彼の記載した種は、現在でも大部分が認められている。それだけで

も彼がいかに卓抜した分類学者であるかが判る。しかし、私がモンロスの仕事に打たれるのは、このように記載段階の研究すら充分になされていない群では、多くの分類学者は命名・記載の仕事に忙殺されてしまいがちであるのに、彼はそのほとんどの論文中で、彼が研究した群の系統関係についての議論を展開していることにある。分類学は、系統進化関係を反映した自然分類体系を樹立することを目的としているが、彼はその全研究生活を通してそれを目指し実践したのである。ハムシ科の系統の研究者は少なくないが、私はモンロスはもっとも重要な貢献をした研究者の一人であると確信する。MCZやスミソニアンで、彼が同定ラベルを付した多数の標本を前にした時、私は彼としばしば直接対話しているような気分になった。意見は異なるけれども、彼の意見は刺激的で示唆に富んでいる。



フランシスコ・モンロスの研究した標本が多数収蔵されているボストンのハーヴァード大学比較動物学博物館(MCZ)の入り口

モンロスの死は謎めいている。私が学生時代に中條博士より伺った話では、ある朝銃を手に頭を打ち貫いて机に突伏していたらしいという。スミソニアンで、生前のモンロスを知るR・ホワイト博士やG・B・フォークト博士からも話を聞いたが、彼の死の真相はよく分らないとのことだった。6月、生前モンロスとも親交があったパリのP・ジョリベ博士宅をお邪魔した際、モンロスは彼の妻と彼女に横恋慕していた警察所長に毒殺された可能性が高いという話を伺った。モンロスは死後出版された追悼記事中の写真で見ると貴公子然とした美男子である。彼の妻も絶世の美女だったとのことだが、甲虫の研究に熱中する夫に我慢ならなかったようだという。

今、私の手許にはモンロスの遺した手書きのラベルの付された多くの標本がある。彼の論文を読み、また標本を調べながら、逢うことのできなかつた一人の優れた分類学者の息づかいのようなものを感じている。

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	助教授	磯部 彰	中華人民共和国	中国地方劇形成過程の戯曲文献調査	元. 10. 16 } 元. 11. 14
	教育学部	助教授	西川 友之	アメリカ合衆国	バレーボール・ルールの変遷とその背景に関する研究	元. 10. 1 } 2. 7. 31
	〃	附属幼稚園 教頭	杉谷利枝子	スイス, チェコスロバキア, オーストリア, フランス, カナダ, アメリカ合衆国	諸外国の教育, 文化及び社会等の諸事情の視察調査	元. 10. 20 } 元. 11. 13
	工学部	教授	時澤 貢	大韓民国	アルミニウム合金の加工性の向上に関する研究打合せ及び資料収集	元. 10. 4 } 元. 10. 11
海外研修旅行	教育学部	教授	永野 弘	台湾	中華民国冷凍空調学会に出席及び講演	元. 10. 28 } 元. 10. 30
	〃	助教授	原 稔	アメリカ合衆国	バイオセンサーの研究	元. 10. 10 } 2. 10. 11
	理学部	助教授	庄子 仁	南極大陸 ニュージーランド アメリカ合衆国	南極大陸バード基地における浅層コア掘削及び現場解析のため	元. 10. 17 } 元. 12. 6
	工学部	助教授	五嶋 孝仁	アメリカ合衆国	アメリカ機械学会トライボロジー会議に出席及び研究打合せ, 資料収集	元. 10. 16 } 元. 10. 26
	教養部	教授	気賀沢保規	中華人民共和国	国際唐史学術会議出席及び発表並びに史料収集及び遺跡調査	元. 10. 9 } 元. 10. 22



職員消息

《新任者住所》

人文学部・理学部

講師 岩井 瑞枝
(文化構造論)

文部技官 岩坪 美兼
(生物学科)

用度係長 北川 功

教育学部

講師 荻原 洋
(英語学)

教育学部

講師 吉田 雅巳
(附属教育実践研究指導センター)

経済学部

助教授 相澤 吉晴
(企業関係法)

経済学部

講師 浅井 尚子
(民法)

工学部

文部技官 松田 健二
(金属加工学)

工学部

助教授 井上 正美
(無機工業化学)

教養部

助教授 筒井 洋一
(政治学)

《住所変更》

事務局

文部技官 桜井 幸子
(工管係)

《住所表示変更》

工学部

文部事務官 尾崎 美幸
(経理係)

人文学部・理学部

文部事務官 永井 昭光
(用度係)

《改姓》

事務局

文部技官 桜井 幸子 (旧姓 森)

教育学部

- 10月3日 附属学校運営委員会
学部入学者選抜方法検討委員会
平成元年度物品定期検査
- 6～7日 日本教育大学協会北陸地区会理科研究協議会（於：金沢大学）
- 11日 大学院設置準備委員会
学部補導委員会
学部教務・補導合同委員会
学部教務委員会
人事教授会
- 11～13日 全国国立大学附属学校連盟北信越地区協議会（於：長野市）
- 12日 教授会
- 13～14日 日本教育大学協会北陸地区会国語科・書道科合同研究協議会（於：福井大学）
日本教育大学協会北陸地区会数学部門研究協議会（於：信州大学）
日本教育大学協会北陸地区会外国語部門研究協議会（於：福井大学）
- 20日 学部補導委員会
循環器検診
- 24～25日 日本教育大学協会北陸地区会社会科部門研究協議会（於：金沢大学）
- 26～27日 平成元年度秋季全国国立大学教育学部長会議（於：神戸大学）
日本教育大学協会北陸地区会音楽部門研究協議会（於：金沢大学）
- 27日 教育実習委員会
- 31～
- 11月1日 日本教育大学協会北陸地区会学長・副学長・学部長・学部教員合同会議（於：富山大学）

経済学部

- 10月2日 平成元年度物品の定期検査
- 3日 学部将来構想検討委員会懇談会
卒業証書授与式
係長会議
- 4日 人事教授会
- 6日 転学部出願者の選考委員会

- 11日 コンピュータ管理運営委員会
人事教授会
学部教務委員会
教授会
- 13日 専門教育課程移行者オリエンテーション
- 16日 後学期授業開始
- 17日 係長会議
- 18日 学部入学方法検討委員会
学部将来構想検討委員会
- 19日 各種委員選考委員会
- 23日 学部補導委員会
循環器検診
- 25日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
- 27～28日 国立11大学経済・経営学部教官懇談会（於：滋賀大学）

理学部

- 10月2日 事務連絡会
- 4日 物品の定期検査
- 9日 学部教務委員会
- 11日 教授会
人事教授会
- 13日 専門教育課程移行者オリエンテーション
入試改善委員会
- 16日 後学期授業開始
係長会議
- 20日 学部補導委員会（持ち回り）
- 24日 学術講演会
- 26日 国立22大学理学部長会議（於：東京工業大学）
- 27日 第7回国立大学理学部長会議（於：東京工業大学）
- 30日 学部補導委員会（持ち回り）

工学部

- 10月2日 物品定期検査
- 4日 学部入学試験検討委員会
- 5～6日 第13回国立大学47工学系学部長会議

(於：信州大学繊維学部)

- 9日 学部教務委員会
博士課程設置準備委員会
- 11日 教授会，工学研究科委員会，専任教授会
- 13日 専門教育課程移行者オリエンテーション
- 16日 後学期授業開始
- 17日 学部補導委員会
- 20日 係長連絡会
- 23日 学部図書委員会
- 25日 博士課程設置準備委員会

- 30～31日 第22回北陸信越地区国立大学工学部長会議
(於：金沢大学工学部)

教 養 部

- 10月4日 内地・在外研究員に関する委員会
将来計画委員会
- 5日 物品定期検査
- 11日 教授会
- 16日 教務委員会
後学期授業開始
- 24～25日 12大学教養部長・事務長連絡会議（於：佐賀大学）
- 26日 健康診断（心電図，血压）
- 27日 健康診断（内科，尿，血压）

附属図書館

- 10月3日 係長事務打合せ会
- 6日 物品定期検査
- 12日 平成元年度第2回図書館業務電算化委員会
- 16日 平成元年度第4回附属図書館商議会
- 18日 平成元年度第5回附属図書館商議会
- 19日 富山県図書館協会理事会（於：富山県立図書館）
- 26～27日 平成元年度北信越地区国立大学図書館研修会（於：福井大学附属図書館）

トリチウム科学センター

- 10月5日 科学技術庁立入検査
- 6日 物品定期検査
平成元年度第2回トリチウム科学センター
研究審査専門委員会（持ち回り）
- 12日 平成元年度第5回トリチウム科学センター
運営委員会（持ち回り）

地域共同研究センター

- 10月11日 長崎大学関係者視察
- 13日 岩手県関係者視察
- 25日 岩手大学関係者視察
- 26～27日 第1回国立大学共同研究センター長会議
(於：富山大学)
- 30日 文部省文教施設部関係者視察

保健管理センター

- 10月2日 第13回全国大学保健管理協会北陸地区保健婦・看護婦班研究集会（於：富山女子短期大学）
- 11～12日 全国大学保健管理研究集会（於：北海道大学）
- 13日 平成元年度国立大学保健管理施設協議会
(於：洞爺湖温泉)
- 19日 循環器検診（工学部，地域共同研究センターの職員，35才以上男・女）
- 20日 循環器検診（教育学部の職員，35才以上男・女）
- 23日 循環器検診（本部，経済学部，附属図書館，トリチウム科学センター，保健管理センターの職員，35才以上男・女）
- 26日 循環器検診（人文学部，理学部，教養部の職員，35才以上男・女）
- 27日 内科診察，尿検査，血压測定（事務局，学生部，教養部，附属図書館，トリチウム科学センター，保健管理センターの職員，男・女）

全国火災予防運動

『火の用心 7つのポイント』

1. 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
2. 子供は、マッチやライターで遊ばせない。
3. 風の強いときは、たき火をしない。
4. 天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
5. 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
6. ふろの空だきをしない。
7. ストープには、燃えやすいものを近づけない。

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755代